

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：泉の郷保育園いずみ	種別：認可保育所	
代表者氏名：山中 康子	定員（利用人数）：72名	
所在地：〒245-0024 横浜市泉区和泉中央北3-1-5（本園） 横浜市泉区和泉中央北2-16-35（分園）		
TEL：045-392-6696	ホームページ： http://www.seikokai.info/seikokaihp/hoikuen/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2016年2月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 誠幸会		
職員数	常勤職員：17名	非常勤職員：13名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：20名	調理師：1名
	管理栄養士：1名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	（本園）：幼児室3室	（本園）：事務室1室
	（分園）：乳幼児室3室	（本園）：保健室1室
		（本園）：給食室1室
		（分園）：調乳室1室

③理念・基本方針

<理念>

明るく 健やかに

(明朗活発な子どもに育てほしい・未来に向かって希望を持つ子どもに育てほしい・心身共に健康な子どもに育てほしい)

<基本方針>

1. 一人ひとりの個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、信頼関係を築く。
2. 遊びを通して、のびのびと育つ環境を整える。
3. 自然体験や社会体験を重視する。

<保育目標>

- 心豊かな子ども（美しいものに素直に感動する心、命を尊重する心を育てていく）
- 思いやりのある子ども（他人を思いやる心、自分や他人の良さを知る心、違いを認め尊重する心を育てていく）
- 元気な子ども（心もからだも健やかな子どもを育てていく）

④施設・事業所の特徴的な取組

＜泉の郷保育園いずみの特徴的な取り組み＞

- 園外保育（散歩）に出かけ、たくさんの自然の中で五感を使い、豊かな感性を養うと共に地域の方々と触れ合う機会を作っている。
- 絵本を取り入れた保育に力を入れ、知識の習得だけではなく、情緒の安定にもつなげている。
- 法人の施設との交流を行っている（高齢者・障がい者・姉妹園）。
- 近隣の保育園、小中学校などとは、定期的に交流をしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月11日（契約日）～ 2021年3月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

【泉の郷保育園いずみの概要】

●泉の郷保育園いずみは、平成28年2月に社会福祉法人誠幸会（以下、法人という）により設立されました。法人は、横浜市泉区を中心に、高齢者介護・障害者支援・保育を軸にした総合福祉法人であり、福祉サービスの提供を幅広く社会に貢献しています。平成24年に横浜市認定の横浜保育室として「泉の郷保育園」を開設し、平成28年には認可保育園「泉の郷保育園いずみ」が設立され、平成30年には「泉の郷保育園なかだ」、そして、令和2年に企業主導型保育園「泉の郷保育園かみいいた」が開設されました。

●泉の郷保育園いずみは、本園と分園を持ち、本園は幼児（3歳～5歳児）の生活の場とし、分園には乳児（0歳～2歳児）を預かっています。本園・分園間の距離は約30mであり、分園の職員は本園を事務拠点として本園から分園に出勤する体制とし、行事も合同で行い、連携体制を構築しています。

●泉の郷保育園いずみの理念は「明るく 健やかに」であり、理念に沿った基本方針を3つ掲げ、実践しています。横浜保育室のノウハウを生かした本園・分園との体制を有機的に活用し、乳児には独立した落ち着いた環境の中で愛着関係を育み、幼児は、縦割り保育とクラス別保育を有効に実施し、子どもたちはのびのびと過ごしています。また、法人が有する高齢者施設と世代間交流を図り、障害者作業所ではパンの購入や、障害者施設入所者が野菜を栽培する畑では芋掘り体験を行う等、活発に交流が行われています。今後さらに、様々な施設との交流を図って行く予定であり、子どもたちに豊かな生活、体験を提供しています。

◇特に評価の高い点

1. 【縦割り、クラス別保育の有効活用】

●泉の郷保育園いずみの特徴の1つとして、本園・分園と園舎が分割された体制にあります。乳児を対象とした分園は、横浜保育室のノウハウを生かし、乳児に特化した手厚い保育が継続できています。本園については基本的には大きな保育室を間仕切り、低い棚等でクラスを分け、日常の保育でも3歳～5歳児の異年齢交流が可能であり、保育活動でも合同の活動が直ぐに実施できる体制にあります。全体に区切りの無い特長を生かした有効な活動により、異年齢、クラス別の両方のメリットを有機的に生かせる保育が行われています。異年齢児保育では、年上や年下の子どもと触れ合

い、自分とは異なる存在を受け入れ、お互いの関わり方を学び、共に成長していくことが期待されます。

2. 【高齢・障害施設との交流】

●法人は、横浜市泉区を中心として高齢者施設、障害者施設を集中的に幅広く展開し、地域との交流の1つとしての意義と共に、泉の郷保育園いずみの子どもたちと高齢者等との交流（敬老の日等）も行われ、良い影響を双方にもたせています。子どもたちにとっては異なる年齢層とのコミュニケーションによる新たな経験をし、高齢者にとっては生きる活力となっています。さらに、障害者との交流は障害を持った人たちとのノーマライゼーションを身近に体験できる貴重な時間となっています。交流では、高齢者施設の職員との交流、障害者作業所（いずみのさと）の就労継続支援B型の方々が作るパンの購入と昼食での使用や、障害者入所施設の畑で芋掘り体験をさせてもらう等、貴重な体験を提供しています。今後もより関係を深め、子どもたちに世の中を幅広く見せて行きたいと考え、交流を進めています。

3. 【自然に恵まれた環境】

●泉の郷保育園いずみの中・長期ビジョンでは、児童福祉法に基づき「保育を必要とする」乳幼児に対し、子どもの人権や主体性を尊重し、周辺環境を生かしながら養護と教育が一体となった保育を実施することを定めています。園周辺は、いずみ中央公園を始めとした大小の公園が点在し、畑、川等の自然が多く残っている地域であり、子どもたちは散歩を兼ねて戸外保育に出かけています。四季折々の豊かな自然が与えてくれる自然の変化を五感でフルに感じ、感性を養い、毎日を大切に過ごしています。大人にとっては同じ風景でも、子どもにとっては発見の連続で、大きな自然とたくさんの刺激の中で子どもたちは楽しむ方法を主体的に見つけています。また、地域の方々とも触れ合う機会を積極的に提供し、区役所前広場での遊びや、夏には泉区役所裏の遊水に灯籠流しを行う等の活動も取り入れ、環境を生かした幅広い活動を行っています。

◇改善を求められる点

1. 【有機的な連携について】

●泉の郷保育園いずみは本園と分園があり、本園では幼児（3歳～5歳）が、分園では乳児（0歳～2歳）が生活しています。本園、分園の良い点については前述の通りですが、職員の情報共有についてはやや改善が望まれます。本園・分園それぞれの職員が集まって会議を行う際、会議の会場とならない園舎においては全職員が出揃うわけにはいかず、数名は留まらざるを得ません。出席できなかった職員への伝達や、会議における時間、人数の問題等を踏まえ、情報の共有・方法等については一考を要すると思われます。また、法人系列園間についても情報管理のICT化の検討が望まれます。情報の共有は必要不可欠な問題であり、特に、新しい保育園ではその点の推進が大切と思われます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：泉の郷保育園いずみ

<評価に取り組んだ感想>

初めて第三者評価を受審しました。開園以来の経過の中で、施設運営に対する客観的な評価に接することで、保育所の課題が明確になり、内容を検討する良い機会となりました。

また、第三者からの助言は具体的で、とても参考になりました。問題点を職員全体で共有し、改善するよう努め、より良い保育、保護者からも信頼される園づくりを目指します。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保護者が意見等を述べやすい体制の確保に取り組む(意見箱の設置など)
2. ボランティアの受け入れ体制の取り組み (マニュアル等の整備など)
3. 保育の質の向上に向けた取り組み(自己評価の振り返り、課題の抽出、助言)

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり